

田中宇著「国際情勢 - メディアが出さないほんとうの話 - 」PHP 2009年1月30日刊を読む

1. 二大政党制は、二党の談合ですべてを決められる「二党独裁」である。フランス革命後、国を強くするために民主主義を導入する必要に迫られた英国は、王室や貴族の支配を温存したまま民主主義のかたちを取り、その後、二大政党制を発明した。日本でも二大政党制への移行が模索されているが、無理して二大政党制にしない方がよい。多党制の方が自然である。

P273

2. 日本人は、強がりと言えなくなって窮すると、一気に全面放棄し、転向して、正反対の土下座をする癖がある。1945年8月15日、鬼畜米英から対米従属に一夜で転向したのがその象徴だ。日本人には、長期戦略の立案・実行に必要な、粘りが無い。英米やイスラエル、中国などは、いずれも国家としての長期的な分析と計画立案を行う習性を持っている。日本も、対米従属ができなくなる今後は、国際情勢を長期的視野で深く分析し始める必要がある。

P289

3. 米国に切り離され、途方に暮れた後、日本にとって良い時代が来るチャンスがある。今の日本人は、何も知らずに対米従属状態に置かれているので、現状以外の状態があり得ることを知らない。日本は、米国から切り離されたとき、世界と自分たちの本当の^{こと}関係に気づく機会を得る。日本は自立した国に戻り、国民は国際社会のダイナミズムの中で(対米従属を糊塗する今のインチキ国際貢献ではなく)自力で活動する喜びを知り、半鎖国から出て、自信を取り戻すことができるかもしれない。

P307

[コメント]

国際情勢の読み方を示す一つの方法は、インターネットの活用。本書はその日本における試みとして意義深い。

- 2009年1月19日林明夫記 -